

あっという間に2025年度も終わりに近づいてきました。毎年カスタネット通信3月号では「絵本」をテーマに取り上げています。この時期になると購読していた1年間の月刊絵本が終わり、次年度はどれにしようか考えているからです。

さて、今年は絵本関連の展覧会と月刊絵本の1冊の話を書きたいと思います。

展覧会



① 五味太郎 絵本出版年代記展



代官山で昨年の12月から2月中旬まで開催されていた、五味太郎さんの「原画」ではなく「絵本」の展覧会です。サブタイトル「ON THE TABLE」の名の通り、机の上にこれまで出版された絵本372作が出版年別に並べてありました。自由に手に取って読めます。バッチが入場券になっていて、それを提示すれば何度でも入れるので5回ほど通い、ほぼ全部の絵本を読みました！（おとな向けの単行本は読みきれませんでした…）

← このイラストがバッチ型入場券になっています



↑ 年号が入ったシンプルな机の上に並べられた絵本たち

オギジビ文庫にある、からだのみなさん、みんなうち、じぶんがみえない、ST室にある、きんぎょがにげた、たべたのだあれ、かくしたのだあれ、行ったり来たり大通り、言葉図鑑①、らくがき絵本ももちろんありました。

五味さんの絵本は「色」がテーマだったり「季節」がテーマだったり、こどもたちとことばを学んでいくのにちょうど良いな、と思うものが多くあります。

英語、中国語、韓国語などさまざまな言語でかかれた、きんぎょがにげた →

年代記展で読んだ本の中で、家でもゆっくり読みたいと思った本を何冊か購入しました。そのうちの1冊が右の**それぞれの情況**です。

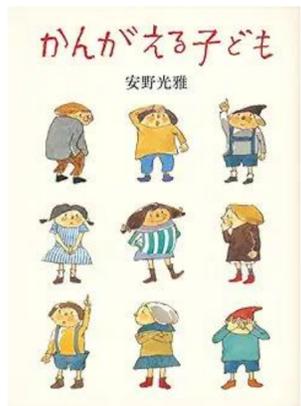
原っぱにいる人々、下校中の子どもなどさまざまな場面で人々を観察し、その人々が何を考えているかが描かれたエッセイです。1993年と30年も前の本なので、急ぎの原稿をFAXで送ったなど時代を感じさせる



情況がある一方で、男と女の2択にするのではなく、10階調くらいにしてどっち寄りくらいで選ばせれば良いのでは？など現在の考え方に通ずる情況もあって面白いと思いました。

② 生誕100周年記念 安野光雅展

3月から5月までを会期とした、「ふしぎと発見の「安野ワールド」を体感！創作世界を未来へとつなげる回顧展」です。これを書いているのはまだ2月なので、始まったら行きたいなと考えています。

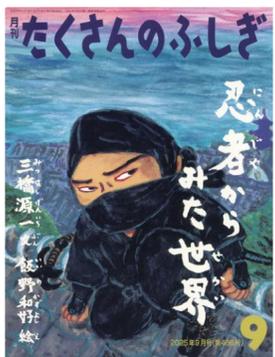


さて左は昨年末に書店の安野光雅さん“生誕100周年記念”特設コーナーで見つけた本です。

最近では自分で考えることが少なくなっているのではないかと、安野さんからの問いかけです。例えば天気予報で気象予報士が「上着を1枚持っていこう」とか「傘を持っていこう」とか言うけれど、それは自分で考えることじゃないか？ということなのです。確かに、AIが食材リストから作れる料理のメニューを教えてくれたり、旅行のコースを考えてくれたりと、ますます考えなくても済む時代になってきています。かくいう私もAIは活用しています。便利なものは利用しながらも、自分の頭で考えることは忘れないようにしたいと思います。

忍者はいるのか

2025年度、オギジビ文庫では月刊絵本「こどものとも」と「ちいさなかがくのとも」を購読していました。12冊×2=24冊の紹介（感想）は待合室用の壁ポスターにしたので、ここでは私が個人的に購読していた「たくさんのふしぎ」から1冊ご紹介いたします。



忍者といえば、忍者ハットリくん、忍たま乱太郎、NARUTO…。最近では鬼滅の刃の柱のひとりも忍びでした。このように忍者を主人公としたアニメはどの時代にも存在していますし、水戸黄門、鬼平犯科帳などの時代劇にも忍びが登場します。姿を隠して世間から忍んでいるはずの忍者ですが、私たち日本人にとっては馴染み深く人気者なのでしょう。

そんな忍者は現実に存在するのでしょうか？ということ現代の忍者、三橋源一さんが解説してくれます。つまり、忍者はいる！ということになります。三橋さんはなんと三重大学で忍者・忍術学の博士号を取得された方だそうです。忍者について学ぶことができるとは、さすが忍者のふるさと三重ですね。

「忍者からみた世界」では、忍者の鍛錬、生活、ピンチの切り抜け方、毒・爆薬についてなど忍者を知るためのことがたくさん書かれています。たとえば、忍者はお昼ごろまでは農作業をおこない、昼から夕方にかけて武術や忍術の稽古に励んでいたそうです。まき割りや田んぼの泥の中で歩くこと、中腰での苗植えなどで足腰が鍛えられ、忍術の能力がより高められたようです。

さて、忍者が忍び働きをしている時に食べるのが兵糧丸、飢渴丸、水渴丸という団子状の携帯食です。ネット検索をするとレシピが出てきます。「忍者からみた世界」を読んで忍者に興味を持ったなら、これらの携帯食を食べて忍者気分を味わうのも良いと思いました。



拔足・差足

十字手裏剣は高価だからあまり使わなかったそう

忍者装束の原形は野良着

忍者の刀は短め 鞘の隙間に密書を隠したらしい

逃げるが勝ち

オギジビ文庫の来年度の月刊絵本とオススメ絵本のテーマは現在検討中です。決まったらまたご紹介いたします！

